

然と一体となる感じ方をとらえ、すぐれた歌のこころを身につける旅でなければならなかったのです。

三十二歳の早春に旅に出た兼載は、北陸から関東の各地をまわって、伊勢、吉野、大坂、淡路島、奈良、比叡山と続きます。途中、二度ほど京都にもどりますが、それでもすぐに旅に出る生活が続くのです。

このころ、京都を中心として十年あまりも続いた応伝の乱はすでに終わっていましたが、各地では一揆がおこったり、

